
三題話「電球」「会議」「マニュアル」

サヤト

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

三題話「電球」「会議」「マニュアル」

【Nコード】

N1094Q

【作者名】

サヤト

【あらすじ】

マニュアル人間の恋の物語です

（前書き）

初投稿です。

誤字脱字等多いかもしれませんが時間があれば見て行ってください。

2月13日、僕がいつものように目を覚ましトイレの電気をつけると電気が弱々しく点滅していた。
どうやら電球が切れかけらしい。

それはまるで蛍のようににはかないものに見えた。

僕の仕事はパティシエ・・・とは言ったもののまだまだ駆け出し
その日僕の勤めている店では会議が行われていた

『春の新商品企画』と書かれたプリントが僕の手元に回ってきた。
春のと書いてあるがおそらくこの企画は最近、近くにできたライバル店を意識しての会議だろう

司会役の人が「これから会議を始めます。えータイトルは――」
といい始めたので僕は意識をプリントから司会の人に移した

「――ということでこの春の新商品を三点考えたいと思います。

お題は『桜』です」

どうやらこの企画で決まった商品は春限定の商品になるらしい

その日の会議は1時間ほどして終わった。来週またやるそうだが
アイデアを考えなければならぬらしい

僕は正直そういうことは苦手だった。何かを自分で考えるよりマニュアルにしたがってやったほうが楽だしそうすることに慣れてしまった。

学生のころはマニュアル人間と言われたほどだ。

その後いつも通り仕事をこなし仕事を終えた僕は明日の仕込みのための準備をみんなとし始めた。明日はとても忙しい日になりそうだ。

そう明日は2月14日・・・・・・バレンタインデーだ

話は変わるが僕には好きな人がいる。
その人は僕と同僚だ。

彼女の周りはいつものにぎやかだ

彼女はいつも楽しそうだ

彼女はいつも笑顔だ

彼女のようになりたいと僕は思っていた。もともと根暗な僕にはたぶん無理なことだと思いつつも希望を捨てられず僕はいつも彼女を見ていた。そうするうちに僕は彼女に恋をしていたのだ。

しかし、恋愛経験ゼロの僕には何をどうすればいいのかまったくわからなかった。

どうすればいい？どうすれば……彼女は振り向いてくれるだろうか。

恋のマニュアルがほしいと思った

僕は最近そんなことをずっと考えていた。

そうして2月13日は終わった

そして向かえた2月14日バレンタインデー

僕は、そわそわしていた。彼女からチョコレートなんてもらえるわけないと思いながらも心のどこかでは期待していたのだろう。そうしていつもの倍くらい忙しい仕事をこなしていった。

「はああ」

声なんてかけてもらえなかったと溜息をついていつものように自宅に帰ろうとし店を出ると、彼女が声をかけてきた。

「まって！」

僕は声をかけられて止まった。そのときの僕はおそらく緊張でとても固い顔になってただろう。返事をしなきゃ、しかしのどの奥が閉まるように声が出ない。声を奥からしぼるように僕は言った。

「な、なんですか？」

彼女は照れたように紙に包まれた箱を僕に差し出してきた。

「こ、これ受け取ってください」

僕は箱を受け取った。箱の中身が何かは今日が何の日かを考えればすぐわかるだろう。

「それじゃまた明日」

そういつて去っていきこうとする彼女を僕は………「まってください」

引き止めてしまった。

「何???」

彼女が問いかけてくる。

もちろん僕はこの後にかける言葉を考えていない。しかし何か言わ

なきや、そう僕は思った。
しかしなんて言えはいんだ。

今日この瞬間ほどマニュアルがほしいと思ったことはない。

恋にマニュアルなんてないと痛感した。

なにか言わなきゃなにか・・・勇気を振り絞り僕はこう言った。

「僕は――」

僕はこの瞬間マニュアル人間を卒業した。

僕が帰宅しトイレに入ると電球が点滅している。
まるで僕をなぐさめるように・・・・・・

（後書き）

どうでしたでしょうか？

おそらくひどい作品と言われるでしょう（笑）

もしよければ感想、評価アドバイスなどお待ちしております

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1094q/>

三題話「電球」「会議」「マニュアル」

2011年1月16日09時39分発行